

交通安全

「交通安全」取り組みの基本的な考え方

「交通安全」の領域では、「交通事故死傷者ゼロ」を目指し、「人・クルマ・交通環境」の三位一体による交通安全の取り組みを進めています。なかでも、ドライバー、歩行者などの「人」に対する交通安全意識向上に向けた啓発活動は、1960年代から推進し、幅広い層に向けたさまざまな活動を継続して実施。昨今では海外事業体でも展開しています。

【事例紹介】

「トヨタ交通安全キャンペーン」 全国トヨタ販売店などと共同で、春・秋に交通安全活動を実施

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)、全国トヨタ販売会社など

【概要】

春と秋の年2回実施される「全国交通安全運動」に合わせ、全国の販売店などと協力して「トヨタ交通安全キャンペーン」を1969年より実施しています。絵本・紙芝居を交通安全教材として、全国の幼稚園・保育所の新入園児向けに贈呈しています。幼児の交通事故に多い「急な飛び出しの危険」や「道路の正しい渡り方」を分かりやすく説明しています。近年は、薄暮時の交通事故比率が高いという実態から、「早めのヘッドライト点灯」、ドライバーに早く気づいてもらえるように「反射材の着用」についても注意を呼びかけています。



交通安全教材（絵本・紙芝居）

【これまでの実績】

2015年度絵本発行部数：約255万部 累計：約1億3,369万部
2015年度紙芝居発行部数：約4.8万部 累計：約147万部



キャラクターのひよこの「クック」と園児たち（トヨタ部品大阪共販）

●トピックス

一般財団法人 全日本交通安全協会より感謝状を受賞

2016年1月、多年にわたる幼児の交通事故防止を目的とした「幼児向け絵本・紙芝居の制作」をはじめ、多方面にわたる交通安全の推進などが評価され、秋篠宮・同妃両殿下が御臨席の

「第56回交通安全国民運動中央大会」で、同協会の今井会長より感謝状が豊田社長へ授与されました。感謝状受賞は今回で6回目となり、企業では最多受賞となりました。



「第56回交通安全国民運動中央大会」の感謝状授賞式



今井会長より豊田社長へ感謝状授与

Web <http://www.toyota.co.jp/ankyan>

体験型交通安全イベント「ピッカリ反射幕」^{しやまな}「視野学ボード」

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)

【概要】

地域に根ざした交通安全啓発を目指し、全国各地の自治体や企業、販売店などと連携して「体験型交通安全イベント」を開催しています。イベントでは、実体験をとまなうプログラムとして、「反射材の効果」や「色による夜間の視認性の違い」を手軽に体験し理解できる「ピッカリ反射幕」、横断歩道横断時、運転時などで左右確認の大切さを実感できる「視野学ボード」などのツールを、幅広い年齢層の方に体験いただくことで、一般市民の安全意識向上につなげています。

【これまでの実績】

2015年度イベント開催回数：6回 累計イベント開催回数：81回
2015年度プログラム体験者数：4,471人
累計プログラム体験者数：約4万9,200人



ピッカリ反射幕の体験



視野学ボードの体験

● トピックス

大きな思いがいっぱい詰まった小さなプレゼント

2015年秋の敬老の日に、「反射材でキラリと光ってね！おじいちゃん・おばあちゃん in トレッサ横浜」を開催しました。このキャンペーンのテーマは「薄暮時の交通安全」。高齢者の歩行中の事故を軽減するために、「早めのヘッドライト点灯」「反射材の着用推進」を呼びかけました。

会場では、反射材の効果や自転車の死角などを学ぶ体験型イベントを開催。そして、イベントのメインとなる「反射材キーホルダー工作教室」にはたくさんのおじいちゃんとおばあちゃんたちが参加してくれました。

交通事故対策に効果のある反射材の説明を聞いた子どもたちは、早速、おじいちゃん、おばあちゃんへプレゼントするために、思い思いのデザインの反射材キーホルダーを作成。手書きメッセージが添えられたプレゼントをもらったおじいちゃん、おばあちゃんたちは笑顔がいっぱいでした。



反射材効果が学べる「くらピカBOX」



「いつもありがとう」の感謝の気持ちを込めて手作りの反射材キーホルダーを贈る子どもたち。そんな気持ちがうれしくてたまらないおじいちゃん、おばあちゃん。



「トヨタセーフティスクール」 地域に定着した幼児交通安全教室

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)

【概要】

愛知県豊田市および静岡県トヨタ施設周辺の年長園児を、トヨタ会館と「トヨタ交通安全センター モビリティ」に招いて、毎年開催している幼児向け交通安全教室です。トヨタ会館では、交通安全劇やクイズなどにより、楽しみながら交通ルールが学べます。「モビリティ」では、専用施設である特徴を生かし、実車を走らせ実際の交通環境を再現した中で「横断歩道の渡り方」や「飛び出しの危険性」を親子で学びます。こうしたプログラムは、園児自らが身近な危険について考え、「気づく能力」を育む内容となっており、地域では恒例の交通安全啓発活動として定着しています。

【これまでの実績】

累計参加園数：3,652園
累計参加者数：25万9,135人



あんぜんマンによる指導 (トヨタ会館)



横断歩道の渡り方 (モビリティ)

[Web http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/safety_school/](http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/safety_school/)

「トヨタ ドライバーコミュニケーション」 安全意識向上を目指した安全運転講習会

日本 | 主体：トヨタ自動車 (TMC)

【概要】

トヨタ独自の安全運転プログラムで、一般および企業のドライバー向けに開催しています。このプログラムは、実技形式で、正しい運転操作や車両の挙動、安全装備の正しい使い方などを学んでいただくためのものです。また、周囲の安全にも気を配るなど、安全意識の向上を目指しています。

1987年に若年ドライバーの事故を低減する目的で始まり、その後、対象年齢や会場を拡大し、「トヨタ交通安全センターモビリタ」(富士スピードウェイ内)をはじめ、全5拠点で年間を通じて開催しています。

【これまでの実績】

2015年度受講者数：約1万3,000人

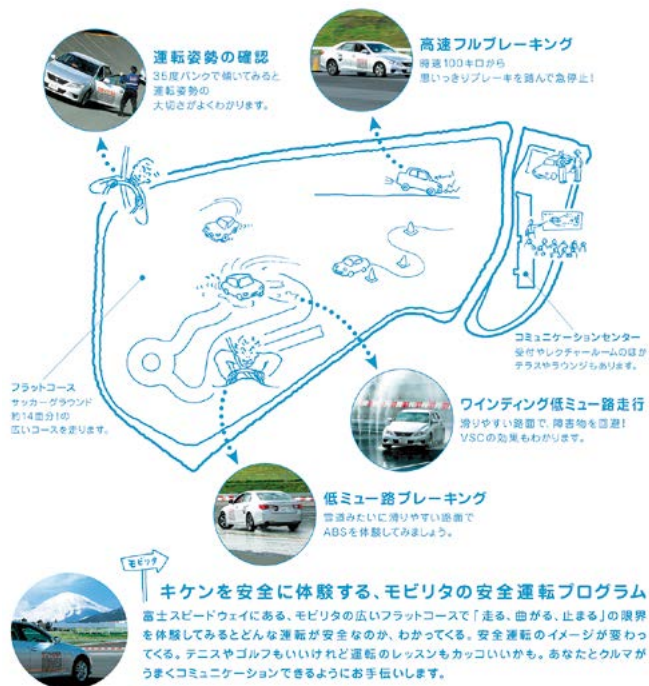
累計受講者数：約10万人



トヨタ交通安全センター モビリタ

“キケン”を安全に体験するモビリタのプログラム

いちど体験してみましょう。たとえば、



● トピックス

「トヨタ交通安全センター モビリタ」設立10周年

2005年4月、富士スピードウェイ内にオープンしたこの施設には、国内最大級の10万㎡のフラットコース、35度バンクや低ミュー路(滑りやすい路面)など、多様な安全運転実技講習を実施するための設備を備えており、2015年に10周年を迎えました。

Web <http://www.toyota.co.jp/mobilitas/>

コラム



「わくわく交通安全くらぶ」 ヒーローショーで交通安全ルールを楽しく学ぶ

日本 | 主体：トヨタ自動車北海道

地域の交通安全意識向上を目的に、2014年度より本社のある苫小牧市内の幼稚園において、交通安全教室「トヨタ北海道わくわく交通安全くらぶ」を開催しています。プログラムは、オリジナルヒーロー「トマモルライダー」と苫小牧市公式キャラクター「とまチョップ」によるショー形式で、飛出しの危険性や信号の意味などを楽しく学んでもらい、最後は全員で正しい横断歩道の渡り方を実践します。



横断歩道の渡り方を教えるトマモルライダー

「ホワイトロード」キャンペーン 交通安全啓発プログラムを全土で展開

タイ | 主体：タイ国トヨタ自動車 (TMT)

【概要】

1988年より、交通安全キャンペーン「ホワイトロード（タイ語で“安全な道”の意味）」を展開しています。これまでに、子どもたちが交通安全について実践的に学べる「ホワイトロード交通公園」の開園や、マスコットが全国各地の小学校を訪問する交通安全啓発プログラム、トヨタディーラーと協働で若年層や運転初心者などを対象にした交通安全キャンペーンなどを実施。これらの活動は、タイ教育省、タイ王国国家警察庁、タイ運輸省などの協力のもとに行われており、政府からはその継続的な取り組みを高く評価されています。

【これまでの実績】

2015年度参加児童数：19万9,230人
累計参加児童数：246万9,000人



ホワイトロード交通公園にて①



ホワイトロード交通公園にて②



子どもたちに交通安全について説明



ディーラーの研修風景

[Web http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/whiteroad.html](http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/whiteroad.html)

「トヨタ安全運転プログラム」 ベトナム初の安全運転インストラクター誕生

ベトナム | 主体：ベトナムトヨタ (TMV)

【概要】

TMVはベトナム公安省の交通警察局と共同でインストラクターを養成する「トヨタ安全運転プログラム」を実施し、2016年3月、ベトナム初となる8人の安全運転インストラクターの卒業式を迎えました。

このプログラムは、ベトナム警察およびベトナムトヨタから選ばれた候補生に対し、TMCの指導員が1年半にわたる訓練を実施し、安全運転スキル、交通安全マインドを指導。マイカーを持たない候補生は、業務用車で日々自主訓練を積むなどしてスキル目標をクリアしました。彼らは、今後の安全運転講習会などを通じて、ベトナムの交通事故低減に貢献していきます。

【これまでの実績】

累計講習回数：5回（2014年8月～2016年3月）



「トヨタ安全運転プログラム」インストラクター卒業式典



8名の安全運転インストラクター

[Web http://newsroom.toyota.co.jp/en/detail/11515078](http://newsroom.toyota.co.jp/en/detail/11515078)

体験型イベントやソーシャルメディアなどを通じた交通安全啓発活動

中国 | 主体：トヨタ自動車中国 (TMCI)

【概要】

中国ではクルマの保有台数の急増に伴い、特に大都市で渋滞や交通事故が頻発するなどドライバーや歩行者の交通安全意識・マナー向上が課題となっています。そこで2005年より、北京・上海などの大都市で交通安全に関する体験型イベントを実施。2014年からは、より多くの方々に関心を持っていただけるよう、交通安全の知識・マナーを分かりやすく織り込んだ物語、漫画、アニメを制作し、新たに開設したSNSや外部動画サイトへの掲載を始めました。子ども向けには、上記の漫画を冊子として配布しています。

【これまでの実績】

累計参加者数：約3万人 累計アニメ視聴回数：約24万回
累計SNS閲覧数：約7万回



飲酒ゴーグル着用体験



絵本を読んでいる子ども

トヨタ・コミュニティ・ファウンデーションによる交通安全活動支援

オーストラリア | 主体：トヨタオーストラリア (TMCA)

【概要】

TMCAが地域コミュニティ貢献活動を統合するため2011年に設立したトヨタ・コミュニティ・ファウンデーション (TCF) は、交通安全に関する助成活動の一環として、NGO「ロード・セーフティ・エデュケーション (RSE)」の主要パートナーにもなっています。2001年から活動を続けるRSEはティーンエイジャー向けに、実践的で効果が高いワークショップなどを通じて、安全な交通社会の発展、交通事故による死傷者低減に貢献。ワークショップでは、免許取りたてのドライバーに対し正しい運転態度と習慣を身につけることを教えています。

【これまでの実績】

ワークショップの一つ「一日体験プログラム」に、毎年5万人以上の高校生が参加・受講。



一日体験プログラムの様子



タイヤの摩耗を確認する生徒たち

Web http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/tcf.html

ディーラーと連携してドライビングスクールを開設

インド | 主体：トヨタキルロスカ自動車 (TKM)

【概要】

交通規則の順守、交通安全、エコドライブなどをインド国内に普及させるため、ディーラーと連携しトヨタ・ドライビング・スクールを開設しています。このプログラムには、クルマを運転する人が自信を持って安全に楽しく運転できるよう、初心者運転に慣れるためのプログラム「スタート」と、上級者として運転スキルを磨くためのプログラム「スマート」が用意されています。トレーニングの各段階で、総合的な評価とフィードバックを受けられることが大きな特徴です。

【これまでの実績】

2020年までにインド国内で50スクール開設予定。
2016年5月時点、4つのスクールを開設（コーチ、ラクナウ、ハイデラバード、チェンナイ）。
延べ487人がプログラムに登録し、344人が修了。



実際のクルマを使ったシミュレーター



トヨタドライビングスクールロゴ

Web http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/india_school.html

空港タクシー運転手の安全運転を啓発

インド | 主体：トヨタキルロスカ自動車 (TKM)

【概要】

インドでは毎年1月に交通安全週間を設け、国中でさまざまな啓発活動を行っています。その一環として、TKMは空港タクシー運転手向けに、安全運転トレーニング講習会を開催。その他、健康診断や視力検査を実施し、更なる検査が必要な場合は病院を紹介し、視力に問題がある場合はメガネを無償提供しています。

【これまでの実績】

2015年度健康診断受診者数：1,280人 メガネ無料配布：306人 病院紹介：4人
累計受診者数：2,580人 メガネ無償配布：631人 病院紹介：8人



健康診断の血液検査



視力検査の様子

[Web](http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/india_taxi.html) http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/india_taxi.html

児童対象の交通安全教育

カンボジア | 主体：カンボジアトヨタ (TCAM)

【概要】

カンボジアでは、交通事故死者数が年々増加し、社会の大きな懸念事項の一つになりつつあります。そのような状況をかんがみ、TCAMは交通事故減少に貢献すべく、2014年夏に交通安全プログラムを開始。大型商業店2カ所で子どもたちを対象に、交通安全専門家によるレクチャーやビデオ上映、交通警察による交通標識の説明、交通ゲームなどを実施しました。2015年10月には地方へと活動範囲を広げ、シェムリアップとバタンバンで児童を対象に実施。児童は、レクチャーの後、学んだ知識から正しい動き方を実践で見つけ出すゲームを行いました。

【これまでの実績】

2014年度開催回数：2回 延べ参加人数：120人
2015年度開催回数：2回 延べ参加人数：330人



ショッピングモールで交通ゲームに参加した子どもたち



バタンバンの学校で交通安全について学ぶ児童たち

[Web](http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/camb_edu.html) http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/camb_edu.html

子ども向け交通安全意識向上活動

トルコ | 主体：トヨタモーターマニュファクチャリングトルコ (TMMT)

【概要】

早期教育によって子どもの交通安全に対する意識を高めるため、2005年より、拠点を置くサカリヤ県の「全国交通安全週間」行事に参加。児童を対象とした「交通安全をテーマとした絵画コンテスト」は、子どもの交通安全意識向上と想像力育成に貢献しています。2010年からは、従業員の積極的なボランティアにより、小学2年生を対象とした交通安全教室を開始し、アニメで交通ルールを学んだり、シートベルトの使い方や夜間の視認性を実際に体験しています。

【これまでの実績】

累計参加者数：7,000人以上



横断歩道の渡り方を学ぶ子どもたち



ゲームを通じて道路標識を学ぶ子どもたち

[Web](http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/turkey_class.html) http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/turkey_class.html

「ティーンドライブ365」 若者向けの交通安全教育を支援

アメリカ | 主体：トヨタモーターノースアメリカ (TMNA)

【概要】

米国では、自動車事故が10代の主要な死亡原因であり、なかでも10代で免許取得後、初年度は最も危険な年とされています。TMNAはこの事実に基づき、10代のドライバーが家族の協力を得ながら安全運転を学ぶ「ティーンドライブ365」を実施。Webサイト上で親子が安全運転について話し合うきっかけとなるさまざまなコンテンツの提供と、安全運転を啓発するビデオコンテストを開催しています。サイトを訪れた人は、運転中に起こりうる危険、事故を回避するための心得や技術を学べます。

【これまでの実績】

ビデオコンテストの参加者数：1,500人以上
ウェブサイトのアクセス数：43万2,049回



安全運転啓発のビデオコンテスト

[Web http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/drive_exp.html](http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/drive_exp.html)

「トヨタ・アンド・ユー・キッズ」 子ども向けの交通安全教育を支援

アルゼンチン | 主体：アルゼンチントヨタ (TASA)

【概要】

TASAでは、地域の発展を支える活動の一環として、交通安全活動、「トヨタ・アンド・ユー・キッズ」を開催しています。このプログラムでは、5～9歳までの子どもたちが、交通安全のテーマパークで、標識や信号等の交通ルールを楽しく遊びながら学ぶことができます。家族と一緒にこのプログラムで学んだ知識は、子どもたちの日々の生活に最大限に生かされています。この活動を通して今後も地域の発展に貢献したいと考えています。

【これまでの実績】

第8回バラデロ市参加人数：1,360人
第9回ザラテ市参加人数：1,050人
第10回カンパナ市参加人数：960人
累計プログラム参加人数：1万1,500人



テーマパークで遊びながら交通安全を学ぶ子どもたち

[Web http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/vos.html](http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/overseas/vos.html)

コラム

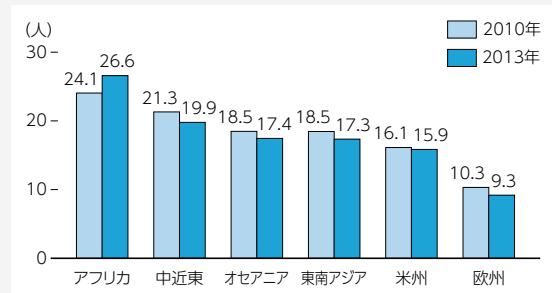


交通事故者数が深刻化するアフリカでの交通安全啓発活動

2013年の世界保健機関 (WHO) の報告書によると、世界の交通事故死者数は、他地域では減少傾向にあるものの、アフリカでは増加傾向にあります。世界全体に占める事故死者数も4分の1を占めるほど多く、アフリカ各国では、事故削減に向けた取り組みが進められています。

トヨタも2004年に「GRSP*」の支援を開始し、新興国における歩行者の安全確保やシートベルトの着用、子どもへの交通安全教育など、主要な交通課題に継続的に取り組んでいます。また、現地のトヨタ系ディストリビューターも、各地域の行政や警察などと連携し、交通安全キャンペーンをはじめとするさまざまな啓発活動を実施しています。

地域別人口10万人当たり死者数



* GRSP(Global Road Safety Partnership)とは
 ・1999年に世界銀行より設立された、途上国の交通安全に取り組む最も権威のあるNGOで、国連による「交通安全のための活動10年(2011-2020年)」を推進する中心的な存在。
 ・交通安全分野のさまざまな団体との連携作業(パートナーづくり)を中心に、新興国(36カ国)に、年間7百万ドル以上の規模で活動を展開。
 ・国際組織(WHO、アジア開発銀行)、市民団体(FIA財団、ブルームバーグ財団)、民間企業(シェル、ネスレ)など、31団体が参加。

事例① ウガンダ セーフウェイ・ライトウェイ・キャンペーン

トヨタウガンダは、「セーフウェイ・ライトウェイ・キャンペーン」理事会のメンバーとして、ウガンダの主要幹線道路における交通事故削減に向けた取り組みを進めています。

2014年には、交通安全キャンペーンを実施するために必要な「スピード監視レーザーカメラ」4台を建設交通省に寄贈し、担当大臣からは「非常に効果があった」との言葉をいただいています。ウガンダ東部では、「スクールゾーンキャンペーン」も始まっています。現在、今後3年間で想定した交通事故削減に向けた戦略的目標と交通安全キャンペーンの実施について計画しています。



スピード管理キャンペーン開会式での説明

事例② ザンビア 交通安全パートナーシップ

トヨタザンビアは、現地交通安全促進活動を支援するため、道路交通安全庁を通して、グローバル交通安全パートナーシップ・ザンビア (GRSPZ) に寄付しています。その寄付金は、「学校向け交通安全パートナーシップガイド」、「交通安全のための国会議員向けツールキット」、「市民向け交通安全ガイド」、「ドライバーズハンドブック」などの交通安全キットの出版費用に充てられています。



トヨタザンビアからGRSPZへの寄付金贈呈式の様子

事例③ マラウイ 交通安全キャンペーン

トヨタマラウイは、南部マラウイ警察、マラウイ交通局管轄下のマラウイ国家交通安全評議会と連携し、2014年3月にブランタイヤ県のナンセングウェ小学校で交通安全キャンペーンを実施。

交通安全意識を高めることを目的としたこの交通安全キャンペーンは、ラジオ番組を通して、道路交通法や道路での走行に適した車両の使用、運転手の注意力、路上の歩行者や通学路を利用する子どもたちへの注意喚起を3カ月間にわたり行いました。

また、ナンセングウェ小学校には、道路横断キットやメガホン、パコンなどを寄贈するとともに、横断歩道も設置しました。



ナンセングウェ小学校に贈られた交通安全キット